

ふてしに

6

'18
No.271

巡回通信誌

Ovarian Cancer Is an Imported Disease: Fact or Fiction?

Elisabetta Kuhn,
Department of Pathology, Johns Hopkins Medical Institutions, Baltimore, MD 21231, USA

Robert J. Kurman, and
Departments of Pathology, Gynecology and Obstetrics, and Oncology, Johns Hopkins Medical
Institutions, Baltimore, MD 21231, USA

le-Ming Shih
Department of Pathology, Johns Hopkins Medical Institutions, Baltimore, MD 21231, USA

「卵巣癌から身を躲す」

名誉院長 西田 敬

最早、恒例とも云える、文科省周辺からの英語教育改革論、毎年の如く持ち出される。よくも飽き
きが来ない者だ。我々の英語はそんなに拙かったの乎！日本語は其麼に、英語から縁遠いの歎。然
り、縁遠く、且つ、程遠い。語源、祖語から違う。似ても似つかぬ処ではない、抑々、縁も所縁も
無い。月と鼈、いんや月と蚯蚓くらい。人種が違う。而して、日本人の英語は拙く、習得にも苦勞
が付き纏うのも宜為る哉。

掛声だけでは埒は開かぬ。隗より始めよ。遭遇したのはalkylating(アルキル化剤)による治療後
の再発卵巣癌。VAC療法のMD Anderson Hospitalを経てIndiana大学のPVB combinationに至る
迄の悪性胚細胞腫瘍の治療の変遷を緋かねばならぬ。先人の労苦、辛苦が滲み出て居る。甲斐あ
つて、1970年代には70%もの死亡率に喘いでいた治療成績も使用薬剤を、椽面棒で捏ね廻し、管理
法の改善で柘の木は残った。現在では70%の治癒率を誇示するに至った。努力怠る可からず、癌は
薬でも治癒可能の好例！英語力を高めたいなら英文雑誌への投稿を勧めたい。例えばCancer、査
読員は2名から成る。一方は甘く、好意的。他方は逆に恣意的とも云える、重箱の隅を突くような
底意地の悪さ。散々罵った挙句に、Finally, your English is extremely poor.だと！鮒じゃ、フナ
じゃ、鮒侍！上野介に罵倒された、浅野内匠頭の無念も斯くや。松の廊下での刃傷事件も納得でき
る。因みに当該論文は国内誌であるGann (Japanese Jopurnal of Cancer Research) に、その
儘、採用して戴いた。

英語教育と忠臣蔵、いくら何でも、飛躍があり過ぎ。真逆Cancerのreferee (査読員) に刃傷を
仕掛ける気では？滅相な、唯でさえ怪し気な英語に、prideは持って居らんよ。以て銘す可し。癌
の好発系の遺伝子 (mutant BRCA gene) が明かに為るにつれ、危機回避手術も漸く注目され始
めた。大口を叩いちゃいかん。人は己を約やかにし…最早、徒然草の領域ですなあ。な

